

緑のしるべ

～ミニ情報～

令和6年 9月 発行
〒300 - 0504 稲敷市江戸崎甲541
TEL : 029 - 892 - 2934
茨城県南農林事務所稲敷地域農業
改良普及センター

新農業経営士・新青年農業士の紹介

<農業経営士>

農業の担い手育成と地域農業をすすめる地域リーダーとしての活動を行う優れた農業経営者を知事が認定します。稲敷地域の認定者は13名で、今年度新たに2名が認定されました。

宮本 貴夫さん (稲敷市 露地野菜)

青年農業士として活動を展開してきました。代表を務める「株式会社れんこん三兄弟」は、レンコン経営に特化し直接販売等、安定した収益の確保を図りながら、社員のワークライフバランスを考慮した勤務体制を構築しています。また、環境負荷低減のため有機質肥料の導入等、特別栽培農産物生産に取り組んでいます。元青年農業士。



塚本 真希子さん (稲敷市 水稻・露地野菜)

稲敷市で水稻とネギを組み合わせた複合経営を行っています。

水稻では農地の集積・集約を進め、規模拡大に取り組んでいます。また、JA稲敷ねぎ部会に所属し高品質な「稲敷ねぎ」の生産・ブランド化にも積極的に取り組んでいます。



<青年農業士>

20～30代の農業経営者で、将来の地域農業の担い手となる農業青年を知事が認定します。稲敷地域での認定者は10名で、今年度新たに2名が任命されました。

古澤 貴裕さん (稲敷市 露地野菜・水稻)

稲敷市でレンコンと水稻の複合経営を行っています。レンコンでは、ハウス栽培にも取り組み、周年出荷による所得の安定化を図っています。また、真空パック包装したレンコンを直接、小売店に販売する等、新商品開発、販路開拓にも熱心に取り組んでいます。



大竹 光博さん (阿見町 露地野菜)

阿見町でレンコン経営を行っています。平成29年、農業経営士のもとで研修し、独立就農しました。就農後は、徐々に面積を拡大させ、今後も規模拡大が期待されます。

また、特別栽培農産物生産に取り組む、環境負荷低減と高付加価値販売の両立を図っています。



退任者の紹介

<農業経営士>

宮本幸男さん (龍ヶ崎市)
増原進一さん (牛久市)

<青年農業士>

山口貴広さん (稲敷市)
彦田智宏さん (阿見町)

長い間のご活躍、ありがとうございました。

レンコン田におけるカモ類侵入防止に取り組んでいます

レンコンがカモ類に食害され、収量が低下し、レンコン生産者の経営に大きな悪影響を及ぼしています。一部のレンコン生産者は、防鳥ネットを設置することでレンコン田への侵入防止に取り組んでいますが、設置費用や維持管理が大きな負担となっています。これまでも、カモ類の侵入防止を目的に音や光による対策も行われてきましたが、対策にカモが慣れてしまい、効果が持続しない事例がほとんどでした。そこで、普及センターでは新たな装置の実証と普及に取り組んでいます。

侵入防止装置の効果実証

普及センターがカモ類侵入防止対策について情報収集したところ、レーザー照射装置を使用している生産者がカモ類の侵入防止効果を長期にわたり実感している事例がありました。

そこで、普及センターでは、レーザー照射機を使用するレンコン田に暗視カメラを設置、夜間自動撮影し、レーザー照射機の使用前後に撮影された画像を比較することで、侵入防止効果を確認する調査を行いました。調査の結果、レーザー照射機使用前には、カモ類のレンコン田への侵入が確認されましたが、使用中には確認されませんでした。

(調査結果の詳細は、普及センターHP [技術情報] に掲載)



<https://www.pref.ibaraki.jp/soshiki/nourinsuisan/nannourin/inanofu/documents/laser.pdf>



レーザー照射装置
【(有)オルサ製】

技術導入に向けた活動

令和6年8月27日には、阿見町認定農業者連絡協議会れんこん部会の鳥害対策研修会が開催されました。レーザー照射機を開発製造している(有)オルサによるレーザー照射機の説明や実演が行われ、普及センターからは、カモ類の侵入防止効果の実証結果を説明しました。その後、レーザー照射機の活用上の課題や課題解決に向けた方策について参加者による意見交換が行われました。

普及センターでは、レーザー照射機が有望な技術となる可能性があるかと捉えており、侵入防止効果の更なる検証、導入に向けた課題解決への支援に取組みたいと考えています。



鳥害対策研修会

水稲収穫後も冬期の管理を徹底しましょう

収穫は次作の準備スタートです。水稲収穫後も速やかに耕起や除草を実施することで、以下の効果が期待できます。

また、近年は生育期間中に異常気象に遭遇する場面が多くみられます。そのため、早めに耕起して作土層を15cm以上確保することで、異常気象条件下でも根張りを良くし、生育を健全化させましょう。

○有機物の分解促進

稲ワラや堆肥の有機物が春までに十分に分解されないと、田植え後にガス(硫化水素)が発生し、生育が阻害される恐れがあるので十分に耕起しましょう。

○難防除雑草対策

クログワイやオモダカ等の塊茎から発生する難防除雑草の多発水田では除草剤のみでの抑制が困難です。水稲を刈り取ったままにせず、耕起を十分に実施し、除草剤防除と組み合わせた対策をしましょう。

○斑点米カメムシ類・イネ縞葉枯病対策

カメムシ類は休耕田や荒れた水路・畦畔で越冬し、生育場所を移動しながら水稲を加害します。また、イネ縞葉枯病はウイルスを保毒したヒメトビウンカがイネを吸汁することにより感染・発病します。水田の耕起や畦畔の除草をすることで生育密度を低減させましょう。



クログワイの球根



クモヘリカメムシ